

福島県石川町

パワースポット
めぐり

いしかわ

物語

魅力満載

八幡山

- 石川城跡
- 陸奥国一之宮
- 狛犬
- 石の名工

信濃国 高遠藩との関係を知る
小松 利平・小松 寅吉

受け継がれる石の業 名工 小林和平

飛翔親子獅子

八幡山の魅力2



あじすきたかひこねのみこと
御祭神
味相高彦根命
ほむだわけのみこと
誉田別命
おおくにぬしのみこと
大国主命

延喜式内社 陸奥国一之宮 石都々古和氣神社

■誰が決めたの？～一の宮～

一の宮は、平安時代から鎌倉時代初期にかけての一種の社格。天皇若しくは天皇の御名代が、年号が変わった際に、その国で一番最初に参拝した神社。諸国において由緒が深く、信仰が篤い神社と考えられています。

■延喜式って？

延喜式（えんぎしき）は、平安時代中期に編纂された格式で、神祇祭祀をどのように行うかを定めたものです。また、延喜式に付随した「延喜式神名帳（えんぎしきじんみようちょう）」に記された神社などが延喜式内社と呼ばれています。

御朱印の受付

御朱印は、参道入口近くの社務所にてお受けしております。

最近では、御朱印を集める若い女性も多く見られます。お好みの御朱印帳や一の宮ならではの「全国一の宮御朱印帳」をお供に、朱印集めの旅を始めてはいかがでしょうか。（社務所 ☎0247-26-7534）

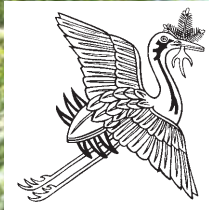
石都々古和氣神社（いわつつこわけじんじゃ）は「延喜式神名帳」に記される、延喜式の編纂当時より朝廷に認識されていた古社である。陸奥国の一之宮にも数えられ、古くから地域信仰の柱となった。

主祭神の味相高彦根命は農工業の神様。また、京都「石清水八幡宮」の御分霊として合祀された「大国主命・誉田別命（八幡神）」は、家内安全、武の神様などとして知られている。

八幡山の魅力1



石川一族 惣領の城 石川城跡



源

氏の血を引く
初代城主 石川有光

石川城初代城主となる源（石川）有光は摂津国（現在の大阪、兵庫の一部）生まれ。清和源氏の一流、大和源氏の流れをくむ源頼遠の次男である。有光は、源義家（八幡太郎義家）と共に奥州に下向し、前九年の役にて功績を挙げたことから石川の地を委ねられたとされ、一〇六三年に八幡山の山頂に石川城を築城し、石川地方の礎を築いたと伝えられている。

伊

達政宗の叔父
最後の城主石川昭光

石川氏の約五〇〇年にわたる統治は、一五九〇年（天正一八年）、豊臣秀吉の奥州仕置による領地没収により幕を閉じた。最後の城主となったのは石川家第二五代当主、石川昭光であった。

昭光は、奥州探題伊達晴宗の四男に生まれ、石川晴光の養嗣子となった。昭光は伊達家当主「伊達政宗」の叔父にあたり、廃城後の石川氏は、角田城主（二万一千石）、伊達一門筆頭として地位を全うした。

■1590年（天正18年）に廃城となった石川城、現在は記念碑が残る。

八幡山の魅力4

■石工技術はどこからきたのか

この地の石工技術は、小松寅吉の親方で、信濃国高遠藩（現在の長野県南部）で生まれた小松利平が、藩の政策により「旅石工」として全国へ出稼ぎの旅をし、この地へ定住（脱藩）することとなったことに始まります。
脱藩者を連れ戻す「石切目付」の目から潜むように、生涯自身の作品に名を残さず、自由に石を刻む生涯を選びました。



小松利平作（推定）
「沢井八幡神社」

小林和乎は、沢井村（現在の石川町）生まれ。次男であったため、幼少時代に小松寅吉（親方）の工房「石福貴」に弟子に出され、住み込みで石工修業を積んだ。
二〇歳を迎えた頃には、既に兄弟子を凌ぐほどの石工技術を身につけていたが、「息子を一番弟子に」との寅吉の期待が大きく、独立まで作品に名を刻むことは少なかった。
「人間、他人の家の飯を食べてみなければ、本当の苦勞は分からない」と和乎は何度も語っていたという。
和乎は独立後、多くの傑作を残している。中でも、辛い修行時代と子を失った悲劇を乗り越え彫り上げた「飛翔親子獅子」は、和乎にとって特別な作品であったことは言うまでもない。



小松寅吉作
白河市「鹿嶋神社」



小林和乎作
古殿町「古殿八幡神社」

石工たちの作品

受け継がれる石工の業

名工 小林和乎

工房「石福貴」
初代親方 小松 利平
二代親方 小松 寅吉



小林和乎

1881年7月13日
～1966年3月8日

八幡山の魅力3

天高く 飛翔親子獅子

狛犬

■狛犬とは

古代オリエント諸国で神や王位の守護神として獅子（ライオン）が用いられたことが起源とされ、日本へ伝わった後に仁王像の「阿吽」を取り入れた「狛犬」が、獅子に釣り合う空想上の生き物として誕生したと考えられています。多くは全国の神社仏閣に奉納され、それぞれが個性豊かな表情を見せています。

石川町「石都々古和氣神社(参道)」

我が子を見守る 飛翔親子獅子

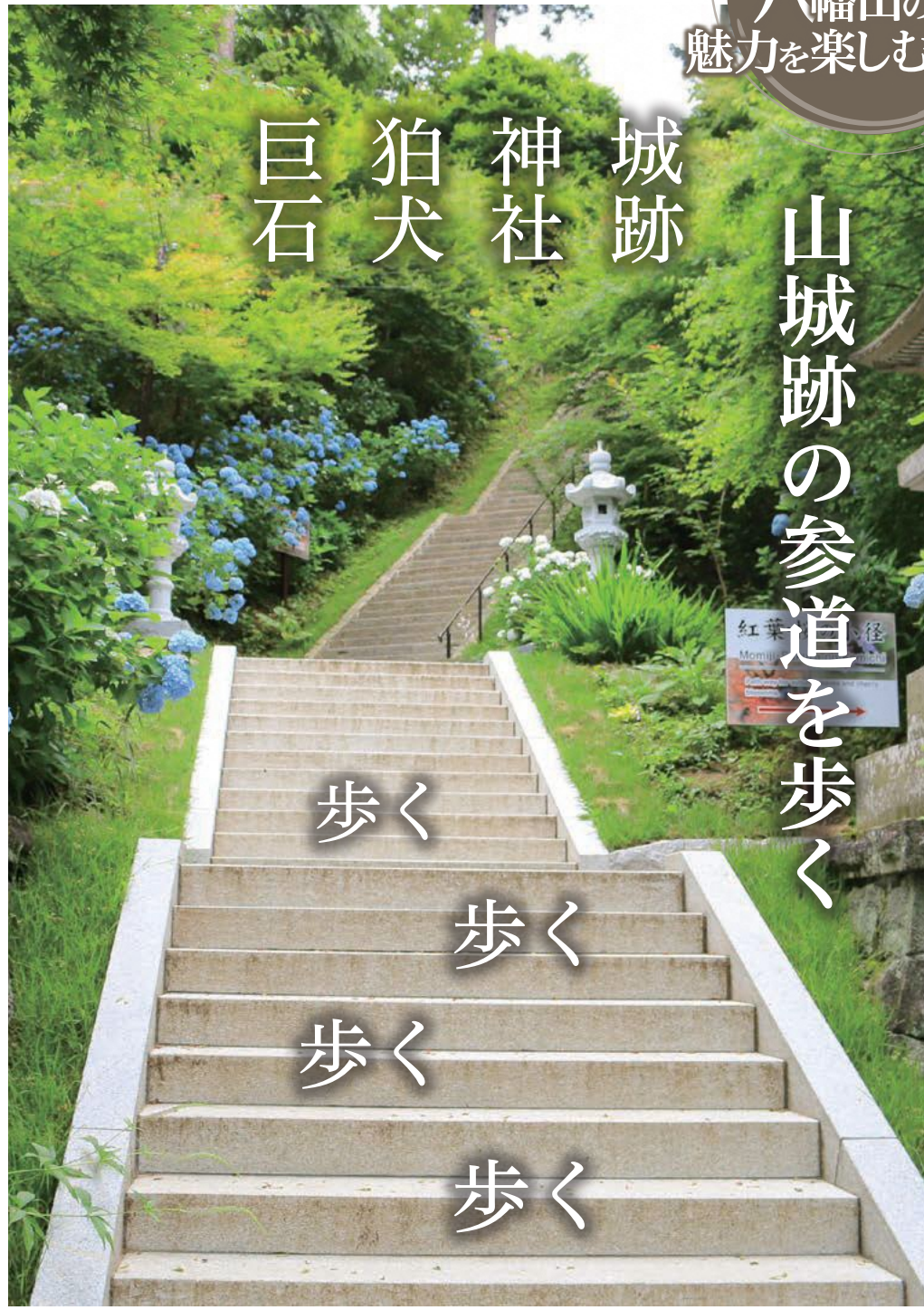
工房「石福貴」の石工は、山から切り出した巨大な石を鑿（のみ）だけで彫り上げ、狛犬を代表とした見る人の心を躍らせる石の彫刻を数多く残してきた。中でも名工と呼ばれた「小林和乎」が彫り上げた彫刻狛犬の傑作「飛翔親子獅子」が、石都々古和氣神社参道口に奉納されている。
向かって右側、後足を天高く蹴り上げ豪快に躍動する狛犬からは、力強く神社を守護する様子が伺える。
一方目線を左側の狛犬に移すと、親子獅子に寄り添う三頭の子獅子に気付く。仲良くじゃれ合う二頭の子獅子と、こちらを見つめる一頭の子獅子はいずれも和乎の子供で、赤ん坊の頃亡くした「長男」と「次男」。さらには一五歳で亡くした「長女」の三人に想いを重ね合わせて彫られたものとして知られている。
力強くありながら我が子を優しく包み、穏やかな印象さを与える狛犬「飛翔親子獅子」は、子供への深い愛情と、あるべき家族の象徴として訪れる人の心を打つ。



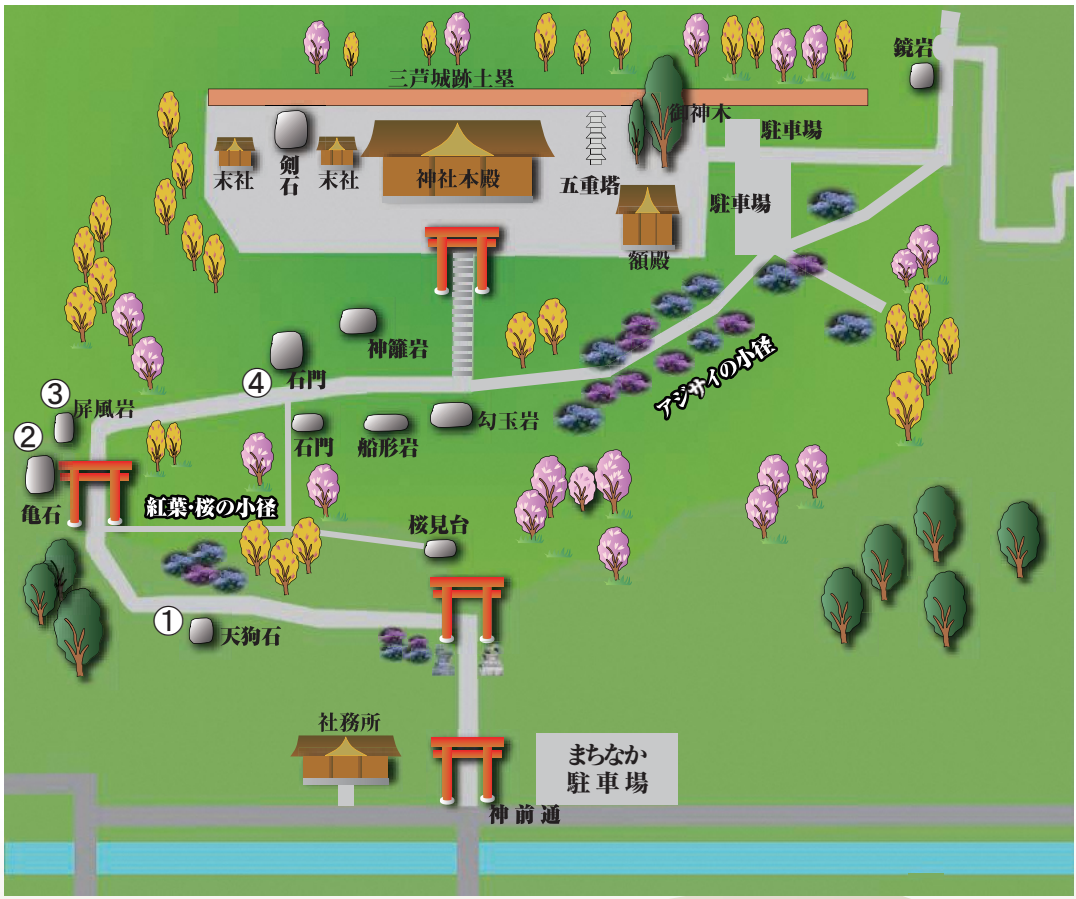
八幡山の魅力を楽しむ

巨石 狛犬 神社 城跡

山城跡の参道を歩く



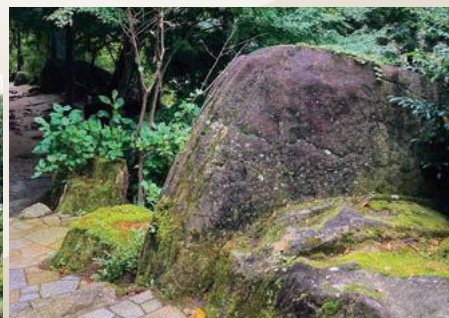
歩く
歩く
歩く
歩く



参道各所に点在する
巨石紹介 (一部)



参道階段手前
にある狛犬「飛翔親子獅子
(小林和平作)」その彫りの細かさに
驚きます。本殿まで、ここから10分。

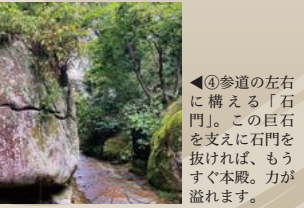


◀①参道最初の巨石「天狗石」。天狗の神とされる猿田彦は、道の神、旅人の神として知られています。

▼②尖った頭と甲羅まで姿が亀にそっくりの「亀石」。触れると頭を引っ込める？(笑)



◀③参道で最大の大きさを誇る「屏風岩」不思議な力を感じませんか。



◀④参道の左右に構える「石門」。この巨石を支えに石門をあげれば、もうすぐ本殿。力が溢れます。

福が満開、福のしま。

福が満開、
福のしま。

二千本の桜並木

いしかわ 桜 谷

母畑温泉
八幡屋
ホテル下の湯
母畑元湯
源苑
高蔵内源泉



母畑・石川温泉郷で過ごす
ゆったりとした贅沢な時間。

塩ノ沢温泉
しおや



片倉温泉
薬王館



猫啼温泉
井筒屋
西田屋

石川町を
もっと
知りたい方は
こちらへ

